

平成 25 年度調査研究等計画書

事業名	浮魚礁モニタリング調査事業				
事業年度	平成 23～25 年	事業費 財 源	1,073 千円 (-) 1,073 (国) (諸)	担当者	漁業資源課 稲葉 太郎・杉本 昌彦
【背景・目的】 黒潮牧場ブイの漁獲効果については関係漁業者から高い評価を受けており、平成 13 年度からは中層魚礁による漁場拡大も図られてきた。近年、来遊資源の激減により、効率的操業と安定経営のため浮魚礁に対する期待と必要性はますます高まりつつある。そこで設置浮魚礁のモニタリングを実施することにより、施設の管理、効果把握及び有効利用を図る。					
【事業の概要】 調査船による定期的な確認調査等によって、浮魚礁の設置状況、集魚状況、利用状況を把握する。					
【全体計画とこれまでの成果】 ①調査船による浮魚礁設置予定海域の海底地形調査 (H23～H25) 黒牧19、20、21号設置予定海域の海底地形調査を実施した。 (H21) ②調査船による設置浮魚礁に関する状況把握 (H23～H25) 浮魚礁の設置状況等を確認するとともに中層魚礁の礁体の挙動特性を明らかにした。(H20～H22) ③標本船調査による浮魚礁の利用状況、漁獲効果の把握 (H23～H25) 黒牧ブイの年間漁獲金額はここ数年、3～7 億円で推移しており、ブイ設置開始（昭和 59 年）からの累計漁獲金額は、90 億円を超えた。					
【25 年度計画】 ①調査船による設置浮魚礁に関する状況把握 5月と11月に調査船で設置浮魚礁の確認調査を実施して、設置状況、集魚状況、利用状況の把握と黒潮牧場ブイ施設の監視を行う。 ②標本船調査による浮魚礁の利用状況、漁獲効果の把握 浮魚礁漁場利用標本船日誌の記載データを解析して、黒潮牧場ブイ及び中層魚礁の利用状況、漁獲効果を把握する。					
【成果目標】 ①既設浮魚礁について、設置状況、集魚状況、利用状況、漁獲効果を把握する。 ②浮魚礁の更新に際し、最新の知見に基づく情報を提供する。					
【期待される効果】 浮魚礁の利用促進により沿岸漁業経営の改善、安定が図られるとともに、操業利便性に優れ、かつ漁獲効果、事業効果の大きい浮魚礁漁場造成のための基礎資料となる。					